

幼稚園のゲーム

原著 ライトソン

補譯 土川五郎

三、名指し

準備 コップ、サジ、シャボン、タオル、人形、ボール等、幼児の日常生活に接觸するものから材料を擇む。

保母はそれ等の品々を一行にテーブルの上に置いて、「誰さんコップを持って居らつしやい」と命ずる其詞は緩やかに、はつきりさせねばならぬ、そして幼兒をして先生が自分に何を要求して居るのか、明らかに受取れる様でなければならぬ、幼兒は其命じられた品物を先生に手渡した時に先生は次の子供に命令を發する。

若し幼兒のうちに其命じられ品物を取る迄に時を要して其間の注意集中が不適當な者が有つたならばそれに注意力を強ひて纏めさせないで、直ちに其座に歸らせて獎勵的の詞を以て慰めて置かねばならぬ、そういふ子供は徐々に其練習を繰返して終には

緩やかに然も確かに出來得る迄辛抱よく試みたいものである。

四、ボール投げ

準備 メドイシンボール

子供等を遊戲室の一隅にあらしめ教師はボールを其群兒の中心に投げる、其ボールを受け得た子供は直ちに教師にそれを投げ返す、教師其ボールを受けた時は又直ちにそれを中心に投げる、若しボールが床上にころがつた時は全兒童に早く拾つてなげることゝ勵ます、決してある子供を名指してはならぬ、其中心に向つて投げるのは全兒童の注意を働かすの爲めである、若しも特に靜かに投げ又受けしめんとするには、特に名指して投げるのがよい、

目的 目と手の練習、注意、自然の活動、

五、球ころがし

準備 二十四個の色ボックスと六つの着色したボ

ール(色は赤、緑、黄)

直径三フィートの圓を描き、圓から十五フィート離れて一線を引く。

圓周の内方にあまり密接しない様にブロックスを置く。

一生を呼び出し其線に立たしめ、倒さんとするブロックスをねらつて一度に一つづつボールをころがして、出来るだけ澤山にブロックスを倒すことに努めしめる。

そしてかくの如く子供を更へて之れを繰返すのである。

倒れたブロックスを散在して居るボールは他の二人の子供を擇んで正しき位置に直さしめる。

目的 確實なるねらひを發達せしめる、**注意**、自然の活動。

六、置きくら

準備 一と色のブロックスを遊ぶ子供の數だけ用意す。

横に長き一線を描き其線の一端から十二インチの距離を置いて縦に短き線(十字となる)を幾つもかく、其長き線と平行して十八フィート離れた所に一

線をかきこゝを出發點とする各生にブロックスを置いて出發點の線の立たしめ、合圖によつて子供は走り出す、そして十字のある所で縦の短かい線(横に長いのでなく)の上にブロックスを立て、直ちに出發點に歸る、若し倒れたのがあれば其れを置いた子供に再び戻つて正しく直ほさせる。

其の遊びは三四回つゞけてなすべきである。
目的 筋肉の統制、**注意**、遊戯精神の獎勵、自發活動。

七、ボール廻し

準備 ドイシンボール

子供を圓列に、一人一人の間が五フィート離れて坐らしむ

一人の子供から次の子供へ球をころがして送る、若し圓周からボールが離れた時は一人の子供に命じて取らしめる。

別に圓内を横切つて相對した子供に送ることも一法である。

此の遊びは遅れて居る子供や足の強くないものによい、活動好きなものではない。

目的 筋肉の統制、**注意**、遊戯精神の發達

八、命令と模倣

子供を静かに坐席にあらしめ模倣力を強めしむるために次の命令をする。

- 1、皆さん目をお指しなさい
- 2、口は
- 3、鼻は
- 4、耳は
- 5、手は
- 6、足は

子供に對し決して強制的に命令してはならぬ子供が此の命令に聞いた時に自分の組の他の子供の爲すことを模倣せんとする望みを増して來る。

目的 命令をきく、注意、模倣

九、沈黙

園に於てある一時静かにあるべき時を作ることは保育上頗る有効である、其時間は三秒乃至五秒間で其間は實に休息の状態にある静かさを保つのである。故に子供は坐して居るのもある、腕組みして居るのもある、足を投げ出して居るのもある、椅子によつて居るのもある、或る合圖によつて全園の幼兒が静かに、次の合圖によつて引き戻す。

教師は此靜肅を解いた時に、幼兒が落付きのある、注意のよくまごめ易い事を發見し得る。

目的 休養、注意、平和

沈黙の合圖は一室にあつては黒板に丸をかくもよし、綺麗な笛の聲もよし。

お隣の清ちやん六歳、奴子風が子供になつたように、かたくしつかり肥つた子。友達に向て。

「ふしや子さん(フサコ)しょーんな事しやら(知)いのか」

と云ておました、私が「清ちやん櫻と云てごらん」と云たら、

清「しやくや(サクラ)」

私「じゃ、雀は」

清「しゆじゆめー」

私「おすじ」

清「……………のりまき……………」

小さい勝利者は身體中でりきみがへつておました。